



当日の餌木タコ仕掛け

●Tackle Guide

餌木タコ用のロッドは各メーカーから専用竿が発売されているので、新たに竿を購入する人は専用竿を選べば間違いない。専用竿以外なら胴がしっかりしていて竿先がソフトなものを選びたい。筆者はテンヤタチウオの竿を使っている。岩田屋では道糸はPE3号以上を推奨している。水深が浅く根掛かりの多い釣りなので、道糸は太いほうが高切れなどのトラブルは減るだろう。

タコ釣りで大切なのは、とにかく餌木を動かすこと。餌木が動かないとタコは乗らない。かといって餌木が底から離れビヨンビヨンと跳ねるほどの大きな動きは逆効果だ。それぞれが好みのお小づき方で餌木を動かしている。竿先をシェイクして餌木に振動を与える人、オモリをわずかに浮かせては落として海底をト

手釣りの人に良型

海底は小石があったり岩盤だったり、根掛かりしやすい場所が多い。餌木の動きは重要だが、ズルズルと引きずってしまおうとそれだけ根掛かりのリスクが高まる。小刻みに動かしつつ、船の流れに合わせて根を越えて移動するようなアクションが理想だ。開始してすぐ、胴の間で竿が曲がった。ヒョイと抜き上げられたのは400グラムほどのマダコだった。その後も連続して竿が曲がる。上がってくるタコは300〜600グラムが多く、湧きダコと呼ばれる昨年に生まれたマダコが多かった。シーズン初期のせいか小型が目立つが、300

▼餌木タコ人気もすっかり定着した



グラムに満たない小型タコはリリースしてほしいと船長からアナウンスがあった。下げ潮がほどよく効いているように、堤防に沿って船はゆっくりと流れる。いい人は連チャンでタコを乗せる。ほとんどの人は餌木を使った竿釣りだったが、両ミヨシのベテランは手釣りをやっている。自前の漁糸を操り、持参した冷凍イシガニをテナヤに縛り付け、糸を指でつまんで小づいている。昔ながらのスタイルだ。その手釣りのベテランに良型がきたようで、タモを出してくれという声が聞こえた。海面にユラリと浮き上がったのは良型2キロのマダコだ。ほぼ全員がマダコの型を見たところで干潮の潮止まり。それまで好調に乗っていたが潮が止まるとパッタリと乗らなくなった。船長は西側ポイントをあち

ち探ったが、朝方のどの乗りは見られない。型も小ぶりが目立つようになってきた。「東側に移動します、荷物が飛ばないように注意してください」と告げられ、船は千葉県側へと向かう。東京湾を横断し、新たな気分でも上げ潮はそれほど効いていなかったが、ポツリポツリと型が出る。こちらのポイントには根掛かりが少なく釣りやすい。キャストして広く探る人のほうが乗りがいいようだ。午後になって、「もう一度西ポイントに行ってみます」と午前中に攻めていなかったポイントへ向かった。この日は初日ということもあり、広くポイントを探って様子を確かめる狙いもあったそうだが、東京湾をサイドチェンジしながら多くのポイントを攻められるのは湾奥出船ならではのメリットだろう。やがて沖揚がりの時間となり、この日の釣果は1〜14杯。全員が型を見て、開幕初日としての上々だった。後半は潮の動きが悪く乗り渋りの時間帯も多かったので、もう少し

●船宿information

東京湾奥浦安 岩田屋
☎047-351-2862
(詳細は巻末の情報欄参照)



岩田 一人船長

▶料金=マダコ乗合一人 9500円(水付き)
▶備考=予約乗合、7時出船。ほかライトアジ、シロギス、各種リレー釣りにも出船。貸し道具、女性、子供割引あり。各種仕立、屋形船も受付。駐車場無料

潮が流れてくれればさらに数はのびそうだった。まだ手付かずのポイントも多く、今後の釣果にも注目したいところ。6月中は湾奥ポイントを中心に攻めるが、7月になると横浜沖が解禁となり、さらに釣り場が増える。タコも徐々に育ってくるので、キロ級のズッシリとした感触も味わえるだろう。



▲手釣りのテンヤも根強い人気がある



▲ここ数年ですっかり東京湾の人気ターゲットになったマダコ、今年もいよいよスタートだ

旬の沖釣りをエンジョイ!

今がチャンス! これから楽しみ!

釣りどきレポート

Best Season Report

船釣りは周年楽しめるターゲットも数多いが、一年を通して見ると6月は意外と新たにスタートする釣り物が多い時期。開幕、解禁、上昇ターゲットを楽しもう!

東京湾の餌木タコ開幕! 今年も好乗りを楽しもう!

●東京湾奥浦安発! 川崎〜姉ヶ崎沖

フィッシングライター 伊井泰洋 Yasuhiro Iwai

6月から開幕となった東京湾奥のマダコ乗合、近年は餌木タコブームもあって人気の釣り物だ。さっそく初日に浦安の岩田屋へとお邪魔した。出船は7時、余裕をもって6時前に到着すると、すでに5名ほどの先客が船宿でくつろいでいる。みな、マダコの開幕を待ちわびていたようだ。このところ関東地方は雨や曇天が続く、そろそろ梅雨入りかと天気予報が伝えていたが、この日は空は爽やかに晴れ、南の微風でこれ以上ないほどのタコ釣り日和だった。「タコの好きな小づきは!?」乗合船の舵を握るのは、岩田屋4代目の岩田一人船長。駐車場への車誘導から、年配客のクーラーを運ぶの手伝ったり、朝から忙しく動き回っている。今日は初日ですから、全員

が型を見られるようにしたいですね」と話す。定刻になり、船はゆっくりと旧江戸川を下って海へと出た。初期の湾奥マダコポイントは川崎沖を中心とする西側と、木更津から北部に渡る東側に大別される。船長が最初に選んだのは西側ポイントだった。羽田空港を眺めつつ50分ほど南下すると投入の合図が出た。水深は8〜10メートル、風上に向けて船を立て、潮に乗せてゆっくりと流していく。各自が思い思いの餌木を付けて投入し、竿先をシェイクしながら餌木を小づく。餌木の色は多彩だ。赤、オレンジ、黄色、白、ピンク、緑の派手な原色の餌木や金ラメ、赤金の光沢の強い餌木も見られる。餌木を2個付けにしている人が多い。2個付ける理由は、より目立たせるという効果もあるが、それよりもバラシ防

知得! Tips and Tricks

タコは脂マシマンが大好き?

▼エサを使いたくなるのは釣りの性!?

タコ餌木に豚バラ肉や脂身を巻き付ける人が多い。乳白色が好みなのか、グニャリとソフトな手触りが好みなのか、それとも単に脂が好きなのか、本当のところはタコに聞いてみないと分からないが、どうもこの日は豚バラ肉を巻いた人の釣果が多かったように感じた。試してみる価値はあるかと思う。